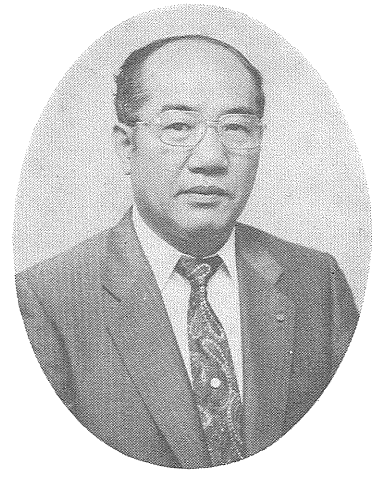
新しい年を迎えて

地質調査所長 石原舜三



石原舜三　所長

1991年を迎え，地質ニュースの読者の皆様に，一言ご挨拶を申し上げます．地質ニュースは1953年（昭和28年）の発刊以来，初期の年6回，8ページ建ての内容を漸次充実させ，1958年より月刊誌として発行を続けて参りました．この間30数年，本誌は地質調査所の業務を中心とする地球に関する総合科学情報誌としての役割りを果して来たわけであります．最近では執筆者層を全国的に拡大し，またタイムリーなトピックスを捕えて新しい企画を次々におこし，本誌の充実に努めて参りました．これまでの読者のご支援に感謝しますと共に，本年もよろしくお願い致します．

地質調査所は，1882年（明治15年）創立以来，地質及び地下資源に関する総合的調査研究機関として，一貫してその業務の遂行に努めて参りました．当所の使命は地球の高度な認識を基盤とし，資源・エネルギーの調査と評価，災害予測，環境評価等を行って社会に貢献し，併せて地球科学の進歩に寄与することであります．同時にわれわれはこれら使命を通じて，人類全体の福祉に尽くす所存であります．

1991年の重点研究課題は，次の3分野に分けられます．

1) 国土及びその周辺海域の地球科学的実態の解明のための調査研究：重要な基礎資料である各種地質図（5万分の1地質図幅・周辺海域の海底地質図・空中磁気図等）の作成．

2) エネルギー・鉱物資源の安定的確保のための調査研究：国内外の炭化水素・金属・非金属資源・地熱資源の調査，情報の蓄積と探査及び評価手法の確立，リモートセンシング利用技術等の新技術の開発．

3) 国土の有効利用，環境保全，地質災害の予知・予測のための調査研究：各種地下空間利用，地下水汚染防止，地盤沈下，沿岸域・湖水環境変化の評価，地球的規模環境変化（CO_2問題等）の評価，陸海域の化学的汚染評価，地震予知，火山噴火予知等の分野における調査研究と評価・未来予測手法の確立．

一方，これらを横断的に行う次の2分野の研究においても更に努力を重ねる所存であります．

4) 国際研究協力と技術協力：多国間及び二国間共同研究，資源開発に関する国際機関への協力，海外技術者研修，発展途上国への研究者派遣，外国との人材交流等を通じて，国際社会への貢献．

5) 地質情報の整備，解析及び提供：当所の研究成果を中心とした各種情報の収集，整理・加工並びに地球科学情報の提供．

1990年代の地球科学は地球深部解明などの未踏の分野に研究が更に進むものと思われます．その為には超深度掘削を含め地下の状態を画き出す技術開発も必要です．また，昨今の CO_2 などによる温室効果問題や火山・地震災害で見られますように，いわゆる環境問題を地球システムの中で捕え，理解しようとする傾向がますます加速されるものと思われます．私達も日本の国土とその周辺海域の調査研究結果をもとに地球規模に思考し，グローバルな地球保全論，資源論を展開する方向で今後の研究を進め，国際社会に貢献する所存であります．

1992年8月24日—9月3日には，地球科学者の“オリンピック”とも言える第29回IGC（万国地質会議）が京都で開催されます．本年はその前年に当り，4,000人からの第一次サーキュラーへの回答を受けて，いよいよ本格的な準備がなされなければなりません．島弧と活動的大陸縁の中心テーマを生かして，114年の歴史のなかで初めて東アジアに来るこの IGC を是非とも成功させたいものです．

地球規模の情報社会と化した今日，地球科学に関する情報の管理と普及はますます重要性を増しております．地球科学の知識の普及と交流に，これまで地質ニュースは尽くして参りましたが，今後さらに充実を図って，国際化時代にふさわしい最新の地質情報を皆様に提供致す所存であります．読者諸賢の一層のご支援とご協力をお願い申し上げて年頭のご挨拶と致します．